51th
川越市立霞ケ関東小学校だより
たいよう
第３号　令和７年５月３０日（金）

学校教育目標
【た】たくましい子
【い】生き生きと活動する子
【よ】よく考える子
【う】美しい心の子

五感を使って学習しよう

校　長　　関　根　　努

校庭の木々が日増しに色濃くなり、青葉若葉が目に美しい季節を迎えました。早いもので、１学期の折り返し点を過ぎようとしています。個人面談では、児童の学校での様子や、今後の方針や児童の配慮点など保護者と共有し、短い時間ではありましたが、有意義な時間をもつことができました。保護者の皆様にはご多用の中、お時間を割いてご来校いただきありがとうございました。

さて、普段、教室をのぞいて見ますと、様々な授業に出会います。立ったり座ったり、身振り手振りをしながら言葉の学習をしている国語の授業。カードを使って、ゲーム形式で地図記号を学習している社会の授業。「たてる・かける・ひく・おろす」と歌にして割り算の筆算を学習している算数の授業。廊下にキャベツの植木鉢や虫眼鏡を置き、いつでも青虫の観察ができる理科の授業。自分で朝顔の種や野菜の苗を植え、愛着をもって世話をしている生活科の授業。他にも、廊下や職員室にも美味しそうな匂いが広がる家庭科の調理実習など、五感を使った工夫された授業がたくさん見られます。

五感とは、視覚（見る）、聴覚（聴く）、味覚（味わう）、嗅覚（嗅ぐ）、触覚（皮膚で感じる）の５つの感覚のことです。五感が刺激されることで想像力や記憶力、発想力が育まれるとされています。単に座学で、黒板や教科書を見るだけでは、知識の定着は難しいものです。見るだけでなく、声に出したり、ノートに書いたりすることで定着がだいぶ変わってきます。

また、得た知識を宿題等も含めて日常生活で体験することも大切です。学習した言葉や漢字を実際に使ってみる。家の周りの地図をかいてみる。買い物で足し算やかけ算を使ってみる。てこの原理を活用した家の中の道具を使ってみる・・・日常生活に落とし込むことで、得た知識の意味を実感するとともに、繰り返し使うことで長期記憶に繋がります。

今は、ネットで検索することで簡単に知りたいことを調べることができたり、映像を見ることで確かめたりすることができます。しかし、実際に体験した感動を超えることはなかなかできないのではないかと考えます。体験には必ず思考が伴うものだからです。自分で考えたことでより記憶に残るのではないでしょうか。